

戦 評 用 紙

インターハイ県予選		
平成26年6月21日		
会場 和光市総合体育館（Jコート第2試合）		
対戦	正智深谷高校 95	慶應義塾志木高校 72
	（ 19-18 24-15 30-16 22-23 ）	
決勝リーグ1勝の正智深谷と1敗の慶應義塾志木の対戦は、両チームともにハーフコートマンツーマンで試合が始まる。		
1 P、先制点は慶應義塾志木、#8#9がシュートを決めいい立ち上がりを見せる。一方、正智深谷は#8が3Pシュートを3本、さらに厳しいディフェンスから速攻を決め、17対12と5点のリードを奪う。しかし、慶應義塾志木も#7のジャンプシュート、#9のゴール下のプレーで粘り、19対18で1P終了。		
2 P、正智深谷は慶應義塾志木のドライブを徹底マークし、#5#6のゴール下シュートで得点する。慶應義塾志木はナンバープレーを駆使しながら#4の3Pシュートで34対31と3点差まで詰め寄る。しかし、正智深谷も#8が速攻とドライブを決め、43対33と10点リードで前半を終える。		
3 P、慶應義塾志木は#8のリバウンドシュートと#5のゴール下シュートで巻き返しを図るものの、正智深谷の#4#7のシュート、#8の3Pシュートで55対41と一気に14点差をつけられる。慶應義塾志木はたまたずタイムアウトを取るが、正智深谷の勢いは止まらず、#7がインサイドの3連続シュート、#8#6の3Pシュートで73対49と大量リードで最終ピリオドへ。		
4 P、慶應義塾志木は#7が3Pシュートを含む3連続シュート、#5もリバウンドシュートで粘りを見せるが、正智深谷も速攻で追加点を奪う。慶應義塾志木はオールコートプレスをかけ、最後まであきらめずに戦うも95対72で正智深谷が勝利した。		

（ 記録者 大宮史子 ）